

## TOGA-SSG13の報告\*

住 明 正\*\*

最後のSSG(TOGA-SSG13)が、BoulderのUCARのbuildingで開かれた。NCARのTable Mesa Lab.の横にあるUCAR Officeの一室である。

会議自体は、TOGA最後の会議ということで、何と云うこともなくrelaxした雰囲気で行われた。というよりは、次の9月のロンドンのCLIVAR-SSGに向けての準備会という雰囲気であった。TOGA-SSGとしては、TOGAのactivityをCLIVARの中で更に維持・発展することを考えており、その戦術としてGOALSを考えており、これをCLIVAR-1の中に入れ込んでゆこうとするのは、自然なことであった。同時に、TOGAの主体がUSであり、そのUSのTOGAに関連した部分を救うという意味もあった。実際、今回の参加者の中にCLIVAR-SSGのmemberが4名(Sarachik, Sumi, Webster, Anderson)おり、GOALSをCLIVAR-1とすることの票読みが行われていた。それによると、Molinari, Arnold(10年以上の変動を扱っている海洋学者)、Depusey(「フランス人はいつもアメリカには反対する」と言っていた)といったところが、反対にまわりそう、ということのようである。本当かどうかは、9月に分かる。

JSCのChairmanとWCRPのDirectorが、交替することにより、雰囲気は大きく変わりつつあるようである。GEWEXとCLIVARの壁の問題も解消しつつある。

とすると、この間のGEWEXとCLIVARの線引きをめぐる混乱は何であったのか、全く疑問になってくる。勿論、Pierreの思い入れのせいである、と言えばそれまでだが……。

\* Report on TOGA-SSG13.

\*\* Akimasa Sumi, 東京大学気候システム研究センター。

ところで、US-GOALSの枠組みの中で、PACS(Pan American Climate Studies)というのが走り始めている。これは、IAI(Inter-American Institute)関連のプロジェクトで、当面は東太平洋域のITCZの研究などのprocess studyを中心に事は展開してゆく様子であった。

日本のGAMEに関しても、評判は上々であった。「GAMEには何故、インドがないか?」と聞かれたが、それ以外は好意的であった。又、1995年3月に開かれるPatayaのmeetingについても、興味を持つ人間が増加して来た。海洋関係の研究を組み合わせることには、皆が同意した。K. Mooneyとの話では、「USは、2000年までは大きなresourceは、Asiaにさけないし、主力はPACSに向けられるであろう。更に実際、多くの人間が疲れており、アジアに再度展開するのは2000年以降になろう」ということであり、安成さんのGAMEのPhase I, Phase II説が非常に説得力を持って来た。

インド洋に関しては、1998年にStuartがベンガル湾のprojectを提案しているが、これに対しては「TRMMのvalidation programとして、JAMSTECの“むつ”の試験航海を考えながら、NASDAのお金をmainにpilot的なprojectとしたら」と話したら非常に喜んでた。結局、インド洋は本格的に観測・研究体制に入る予定で、そのための体制づくりを1996-1997年あたりから始める、というのが構想になった。

TOGAの最後を飾るTOGA-Partyが開かれた。素晴らしい夜景で、日本の天皇も一夜を過ごしたところだそうである。余談ながら、この時笠原さんの奥さんが花を活けたそうである。皇后と話をして「写真とは全然印象が違う」と話していた。このレストランでは、reppersnakeとalligatorとbuffaloとeta(?)とか、

変なものばかりを食べた。M. Hall の sponser という  
 ことであった。US も日本化されたものだと思った。  
 かくして TOGA の10年は終了する。思えば、本当  
 に良く物事が進んで来たものだ。この10年の中で、筆

者も手探りで進んで来たが、なかなかと勉強になった。  
 今後はこの経験を CLIVAR の中に活かしてゆくこと  
 になろう。

---

### 第32回理工学における同位元素研究発表会 発表論文募集

会 期 1995年7月10日(月)～7月12日(水)  
 会 場 国立教育会館(東京都千代田区霞が関3-2  
 -3 文部省の隣)

〒113 東京都文京区本駒込2-28-45

日本アイソトープ協会内

理工学における同位元素研究発表会運営  
 委員会

TEL 03-3946-9681 (ダイヤルイン)

- (1)発表形式 口頭発表またはポスター発表.
- (2)口頭発表時間 1件15分(原則としてOHPを使  
 用する)
- (3)ポスター発表 特にテーマを設けておりません.  
 どの申込区分の応募でも結構です.
- (4)発表者の資格 関係学協会員
- (5)発表申込 所定の申込書(1件1通)により申込  
 む. 申込書は下記宛請求して下さい.

(6)発表申込締切 1995年2月28日(火)

(7)講演要旨 発表申込があり次第, 所定の原稿  
 用紙をお送りします. 口頭発表,  
 ポスター発表とも, 1件につき原  
 稿用紙1枚.

(8)講演要旨原稿締切 1995年4月15日(土)

(9)研究発表会への参加 無料